

横浜市立永田台小学校

問い合わせ先: 045-714-4277

I 学校の概要

1 児童生徒数, 学級数, 教職員数

(平成29年3月現在)

児童数	479名
学級数	16学級
教職員数	33名

2 地域の概況

学校はマンションや団地に囲まれているが、地域の方々は、花や木を植え整備し、緑で住みやすい町作りをしている。しかし、団地も年数を経て、横浜市内でも最も高齢化が進んでいる地域となっている。

3 環境教育の全体計画等

環境教育の目標

自分たちの身近な環境を見つめることを通して、よりよい環境を作っていこうとする児童を育てることを目指す。

環境に対する豊かな感受性の育成

自分自身を取り巻くすべての環境に関する事物・現象に対して、興味・関心をもち、意欲的にかかわり環境に対する豊かな感受性をもつことができるようにする。

環境に働きかける実践力の育成

環境保全のため、どのような生活様式や実践的行動をとるべきかなどを考えて行動することや、自ら責任ある行動をとり、協力して問題を解決できるようにする。

環境に対する見方や考え方の育成

身近な環境や様々な自然の事物・現象の中から自ら問題を見付けて解決する力とその過程で獲得する知識と技能を身に付けることで、持続可能な社会の構築につながる見方や考え方を育む。

II 研究主題

「サステナブルスクールを志向する環境デザインについての研究」

III 研究の概要

1 研究のねらい

「作る、できる、発表する」ことだけに満足することなく、「影響、変容、変革」を求める子どもの姿を目指している。観測を通して、多くの気づきを高め、課題意識をもち、身近な実践を行っていくことができるようにする。

2 校内の研究推進体制

(1) 研究推進体制

① 校内体制

校長、副校長、教務主任、環境部を中心に計画

・研究・情報発信を行う。

② 関係諸機関との連携

・SDGsカードゲーム

・横浜市水道局による出前授業

・エコプロ2016参加

・サントリー出前授業

・東レ出前教室

・環境絵日記

・エコライフチェックシート

(2) 観測体制

日々の観測は以下の通りである。

・環境委員会

雲量・雲形の観測

ビオトープの水温、地温、PH値測定

最高気温、最低気温、現在気温の測定

校内への発信

(3) 観測機器などの設置状況

① 百葉箱(デジタル温度計)

② 湿度計(各教室配置)

③ 地温計、水温計(ビオトープ設置)

④ PH試験紙

③ デジタルカメラ

④ 記録ファイル



3 研究内容

(1) グローブの教育課程への位置付け

- ①身近な環境、自然事象に目を向け、「影響変容・変革」を求める子どもの育成を図る。
- ②日々の観測を続けることで、世界の環境に目を向けることのできる子どもの育成を図る。

(2) グローブを活用した教育実践

I. 全校の取り組み

環境絵日記

全校で夏休みに取り組んだ。身近なことや、自分の生活を振り返ったり、見直して、環境の事を考えたり、環境に良いことに取り組んだりしたことを絵日記にした。今年で4年目なので、保護者の方にも理解があり、子どもと協力、実践して下さっているご家庭も多くなってきている。

エコライフチェックシート

3年生以上が夏休みに取り組んだ。自分の生活がエコにどれだけ貢献しているか、チェックをすることで確認している。

エコプロ2016出展(3~6年生)

自分たちの身の回りの環境の調査や観察等で気付いたことをもとに、ブースを出展し、見学していただいた方に、子ども達一人ひとりがそれぞれどんなことを調べ、どう感じたかなどを聞いてもらう場としている。

II. 各学年の取り組み

1年生

年間を通して学校探検を行い、学校は色々な人たちが関わってくれているということに気付いた。

2年生から育てたあさがおの種をもらい、育て方を教わった。種から芽が出て、つるが伸び、花が咲く、そして種になる。育てていく中で「種から種に命はつながっている」ということを知り、大切に育てることができた。

また、自分たちが育てた種を新しく入学してくる新1年生にプレゼントすることで、「命のつながり」をバトンタッチしている。



2年生

生活科の中で、夏野菜、冬野菜の栽培を行った。種から苗を育てることで、植物の成長の変化を

実感することができ、子どもたちは「自分の苗」という愛着をもって育てた。また、毎朝の水やりや観察なども、率先して行うことができた。育てて収穫した野菜は、調理をしてみんなでおいしく食べ、食物のありがたさを感じた。

また、モルモットのお世話も毎年2年生が担当している。動物園に行き、飼育員の方にお世話の仕方を教わった。中休みや昼休みに触れ合いながら、ケージの掃除や餌やりをして、生き物とのふれあいに親しみを感じながら活動することができた。



3年生

環境のために自分たちのできるエコは何か?ということや、地域の人と共に地域を守っていくには、自分たちに何ができるか?という「自分ができることを考え、行動できる子」をめあてに活動した。主に、地域ケアプラザのようなお年寄りがいる場所を訪ねて、交流を重ね、地域のために自分たちができることを考えた。

また、学校の中では毎日、たくさんの紙が使用されていること、紙も大切な資源であることを理解し、白紙が包まれている茶紙を捨てずに活用したり、毎日給食に出される牛乳パックの再利用法を考えたりした。



4年生

「水」についての取り組みに重点をおいて活動した。毎日何気なく使っている水道の水がどのようにできているかを、実際に浄水場へ行くことで知った。その中で、24時間365日管理していることで、家庭や学校に水が届いていることがわかり、自分たちがどのくらいの水を使っているのか、どのくらい無駄にしているのかを振り返ることができた。

また、日本では当たり前のように水道の水を飲むことができるが、世界ではそうではないこ



とを知った。出前授業を通して、水をきれいにするための企業の技術を教えてもらい、節水も含め、自分たちに何ができるか、できることから始め、その実践をエコプロや、かがやき祭(総合発表会)等で発信した。

5年生

SDGs カードゲームを通して「SDGs(持続可能な開発目標)」を知ることからスタートした。



気候変動によって様々な地域で生活に変化が起きていること、世界は今、どんな状況にあるのかなどを調べた。また JICA での「もしも世界が100人の村だったら」の体験から、日本と世界の違いや貧困、まだまだ残る差別に気付いた。

調べたことについては、エコプロなど、たくさんの人に出会える機会に発信することに取り組んだ。

6年生

「未来ザップ~my story~」というテーマで文化・歴史体験、国際理解・海外交流、環境教育等、様々なことに接する機会を設けた。

その中から自分と、自分の未来にとって大切なことを考え、行動を起こしている。

例えば、生き物が住みやすい水環境を調べたいと、理科専任とともに水質、水温等を調べたり、ごみや無駄を減らすためにエコバックを自分で作ったりと、環境を維持・改善するための工夫をする児童も見られた。

このことは中学生、大人になっても気にかけて、興味をもち、アンテナを高くしていけるよう活動している。

個別支援級

今年度は「歌おう、踊ろう、エコミュージック」というテーマで、エコと音楽を組み合わせた活動をしている。

不要になったものや、普段はゴミとして捨ててしまうものなどを使って、手作り楽器をつくり、それを使って歌に合わせて演奏したり、リズム奏をしたりした。



Ⅲ. 環境委員会の取り組み



日々の常時活動として、最高気温・最低気温、雲量・雲形の観測を行ってきた。また今年度、ビオトープの整備が完了し

たので、夏季からビオトープの水温・地温・水質検査を始めた。

5年から環境委員会に在籍していた6年生が観測する手段・方法を伝え、毎日の計測を正確にとるよう努めた。

観測結果をもとに、今まで数年分の観測データと照らし合わせて気付いたことを話し合い、「どんどん気温の上がる時期が早まって



いる」ことや、「最高最低気温の差が少なくなってきた」ことに気付いたり、気温の変化が「以前に比べ雲の形が似ている日が多くなってきている」こととつながっているのではないかと、それぞれの観測データを関連付けて考えたりできた。

また委員会の中にフィリピンに繋がりのある児童がおり、「どんどんフィリピンの気候に近づいてきている」と感じたことから、フィリピンと日本の毎月の平均温度と比べ、気候の変化に気付くことができた。

これらのことを「グローブ日本の集い」での発表もふまえ、朝会での発表とポスターの掲示という形で発信した。

Ⅳ. 職員の取り組み

昨年度、今ある学習を水・森林・エネルギー・生物多様性・防災・気候変動に分け、今年度、気候変動の学習を中心に取り組んで行くこととした。

まずは職員がSDGs(持続可能な開発目標)について知ることや、気候変動の授業について教材研究を行った。

Ⅳ 研究の成果と課題

1. 毎日の観測

1週間に5日、毎日のように観測を続けることで、いつもと違う、先週と違う等、微妙な変化に気付くことができるようになった。

また4年間のデータがあるので、4年前と…去年と…というように比較することで、新たな気付

きが生まれる、ということも多くなった。

ただ、その気付きから得たことを自分の生活や生かすことや、学校の中や他の児童への発信、となると、自分たちから行動できるまでには至っていない。

候変動を考える授業を3年生、5年生で行った。

このような企業等との繋がりを生かして、気候変動についての授業や活動を繰り返す行うことで、新しいアプローチを考え、さらに発展させていきたいと考えている。

2. ビオトープの整備

地域の方に協力していただき、ビオトープの整備が完了した。それにともない、ビオトープの観測も開始し、環境部が中心となって草取りなどもしている。



また、ビオトープの整備が完了したことで、いずれ蛍の幼虫をビオトープで育て、成虫にできるようにしていきたいという思いから、地域の方や「横浜ホテルの会」の方に蛍の育て方や性質を教えていただいたり、インターネットで調べたりと、児童も「蛍を育てたい」という気持ちは大きくなっている。

その反面、本当にビオトープが蛍の育成に適しているのかや、今後どのようにビオトープを維持していくのか、いまだ手探りで、地域の方に手を借りている部分が多い。

V 今後の展望

1. 環境委員会からの発信

例えば、月に1回の委員会活動の中で、日々の気付きを話し合い、行動に移すための時間をとったり、活動掲示板をつくって日々の活動を発信するなど、4年間の積み重ねを生かし、今の学校生活の課題や、委員会の中で学校のためにできることを自ら考え、行動できるようなきっかけを作っていきたい。

2. ビオトープの改善と維持

今は環境部の職員が中心となってビオトープの管理をしているが、どの職員にもわかるようにマニュアルをつくったり、地域の方やPTAにも定期的に整備をお願いしたりすることで、委員会だけでなく、クラスや地域の方との活動の場として、ビオトープが生かせるようにしていきたい。

3. 気候変動に関する学び

今年度、イマココラボのご協力でSDGsカードゲームの授業を2回行った。また「キートスのリンゴの木」という映像を用い、物語から気